

～講評～

審査員：山田 直行 （ 絵画 ）
清水 耕史 （ 写真 ）
太田 直彦 （ 書 ）
村上 正子 （ 手芸 ）
白武 初芳 （ 工芸 ）
北村 敏枝 （ 絵手紙 ）

【作品全体評】

[絵画]

（審査所感：部門の作品全体として）

出品作品は8点の少数精鋭の審査でした。

それぞれ自分の世界を楽しく表現されています。そしてどの作品も真摯に描かれた佳作でした。美へのアクセスは自由で無限です。それぞれの作品の「よさ」を感じさせていただいて審査させていただきました。

〔最優秀賞〕 出品者氏名 岸川 陽子

（講評）F10 号の力作「平和の祈り」はヒマワリをモチーフ（題材）にした、重厚な筆致で描かれた油彩画です。今年は戦後80年。平和への祈りと願いが強くバイタル（力強く）に伝わってくる力作です。マチエール（筆触）に作者の独特なリアリティ（真実性）を感じさせる秀作だと思います。

[写真]

（審査所感：部門の作品全体として）

高齢者の作品展との事ですが、さまざまな被写体に興味を持ち、撮影されていることに感心しました。機材の向上もあるのですが、ブレやボケも少なくきちんとした作品が揃っていたように思います。

優秀賞の作品は3枚組、しかも文章とのコラボレーションという形でしたが、写真部門ということで文章は二の次で審査しました。右端の一枚だけでも十分物語が感じられ、良い作品だと思います。何を表現したいのかが、いまひとつ明確でない作品もありました。狙いをしっかりと表現しましょう。

〔最優秀賞〕 出品者氏名 御厨 康司

（講評）満開の桜のもと、おそらくは家族の写真を撮影しているのであろう男性。そしてその後ろには満開の桜自体にカメラを向ける女性。それぞれの関心の違い、真剣さの違いにおもしろさを感じました。プリントやパネル仕上げも丁寧でしっかりと作り上げられています。

[書]

(審査所感：部門の作品全体として)

お手本通りに整った字を書くのが習字（書写）。筆を墨で「あなた」を表現するのが書道です。上手い、下手ではありません。みんな違ってみんないいのです。その意味で酸いも甘いも知り尽くした方々の作品はとても楽しめました。これからも楽しみながら「あなた」を感じさせる作品に挑戦していただきたいと思います。

〔最優秀賞〕 出品者氏名 大野 恭子

(講評) 趣味の域を出た作品です。

字形といい、渴筆のある筆のタッチといい群を抜いています。黒（文字）と白（余白）のコントラストも申し分なく、一朝一夕には書けない作品です。

[手芸]

(審査所感：部門の作品全体として)

高齢者の手間をかけて作られた作品が審査をしていて頑張られた姿が目には浮かびます。構図、配置、色彩等考えた努力が見受けられます。

又、来年も健康に気を付けて作品の提出をお願いします。

〔最優秀賞〕 出品者氏名 樋口 文千恵

(講評) タペストリーの作品をつくられて良くできていました。全体的な色合い（上品な色）、作品の構図や技術等熱心に作られた様子が浮かびます。これからも健康に気を付けて頑張ってください。

[工芸]

(審査所感：部門の作品全体として)

工芸部門は 9 点の出品でしたが、それぞれの作品に対する作者の熱意が感じられ、またコツコツと丁寧に時間をかけて制作されたことが見てとれる作品ばかりでした。

〔最優秀賞〕 出品者氏名 鳥谷 信明

(講評) 作品は「木工」となっていますが、花器と花台の作品です。

花器はイブキの一品種である柏槇の古木で趣のある幹を。また、花台は松の古木を共に素材の持ち味を最大限に生かし、丁寧に仕上げられた秀作です。

[絵手紙]

(審査所感：部門の作品全体として)

「自分にも描けた」という喜びこそ、何事にも代えない絵手紙です。
作品の色々な表現しかたがあり、それぞれの味あいがありました。通信手段も
スマホ・メール・LINE と便利の時代に、絵手紙での自分で作る、自分しかでき
ない良さを痛感しました。

[最優秀賞] 出品者氏名 久米 育枝

(講評) 今回 15 名の方が絵手紙の応募者でした。

日頃、料理で使っている食材で、興味深く感じました。「描ける」「続け
る」を継続してください。